

## 簡易型診療情報提供書活用による受療促進に向けた研究

研究分担者：本田 浩一 大分大学医学部消化器内科 講師

**研究要旨:**大分県医師会に依頼して、大分県内約 1000 の医療機関に B 型肝炎・C 型肝炎診療連携のための簡易型診療情報提供書を 5 部ずつ配布した。本年度末に約 20 の医療機関に対しアンケート調査を施行したが、認知度が 14%程度と低く、この紹介状を用いた拠点病院（大分大学）や肝疾患診療協力病院（2 病院）への紹介もなかった。認知度が低いことや自院での紹介状のフォームを使用していることが有効活用されていない理由と考えられた。そのため、今後は認知度を上げるための取り組みが必要と考えられた。

### A. 研究目的

近年、B 型肝炎や C 型慢性患者に対する抗ウイルス療法が進歩し、ほとんどの患者の肝炎鎮静化あるいはウイルス排除が可能となった。一方、自身のウイルス感染について知らない患者や、ウイルス検査が陽性であっても有効な治療が行えていない患者も多い。本研究は肝炎ウイルス陽性者に対する受検・受診・受療を進めていくための有効的なシステム構築を目的とする。

### B. 研究方法

ウイルス性肝炎検査陽性者が非肝臓専門医を受診することがあるが、抗ウイルス治療は近年急速に進歩しており、非専門医による治療方針の決定が困難なことがある。そのため、抗ウイルス治療に精通した肝臓病専門医との診療連携が重要と思われる。非専門医と専門医との連携のため、本研究

班の名古屋市立大学での簡易型診療情報提供書によるシステムを、大分県でも導入し、その有効性について検討した。まず、大分県肝炎協議会において簡易型診療情報提供書の運用の概略について説明し、県医師会への協力依頼の通達をお願いした。2018 年 8 月に大分県福祉保健部健康づくり支援課および大分大学医学部附属病院肝疾患相談センターより、大分県医師会に B 型肝炎・C 型肝炎診療連携のための診療情報提供書の配布を依頼。その後、2018 年 9 月に大分県版簡易型診療情報提供書を医師会から、大分県内約 1000 の医療施設に 5 部ずつ送付した。認知度や活用状況について調査するため、2018 年 2 月～3 月に県内の 21 ヲ所の医療施設の医師に簡易型診療情報提供書に関するアンケート調査を施行した。

B型肝炎診療情報提供書

年 月 日

紹介先医療機関 病院 科

先生

紹介元医療機関の所在地  
名称  
電話番号  
医師氏名 印

患者氏名 性別 男・女  
患者住所 電話番号  
生年月日 年 月 日  
年齢 歳

傷病名  
・B型肝炎  
・その他の病名 ( )

紹介目的 (□にチェックしてください)  
□B型肝炎の抗ウイルス治療適応の判断および治療における診療連携  
□follow upに関する助言  
症状経過および検査結果

HBe抗原 陽性  
HBV DNA (リアルタイムPCR法) \_\_\_\_\_ log IU/ml (測定していなければ記入不要です)  
現在の処方

抗ウイルス治療が必要な場合の治療および治療後のfollow upに関する希望  
( ) 治療およびfollow upとも紹介先に任せる  
( ) 自院で治療およびfollow upを行う  
( ) 紹介先と自院で連携して治療およびfollow upを行う  
( ) 紹介先で治療を開始し、治療継続およびfollow upは自院で行う  
( ) その他 ( )

備考

C型肝炎診療情報提供書

年 月 日

紹介先医療機関 病院 科

先生

紹介元医療機関の所在地  
名称  
電話番号  
医師氏名 印

患者氏名 性別 男・女  
患者住所 電話番号  
生年月日 年 月 日  
年齢 歳

傷病名  
・C型肝炎  
・その他の病名 ( )

紹介目的 (□にチェックしてください)  
□C型肝炎の抗ウイルス治療適応の判断および治療における診療連携  
□follow upに関する助言  
症状経過および検査結果

HCV抗体 陽性  
HCV RNA (リアルタイムPCR法) \_\_\_\_\_ log IU/ml (測定していなければ記入不要です)  
現在の処方

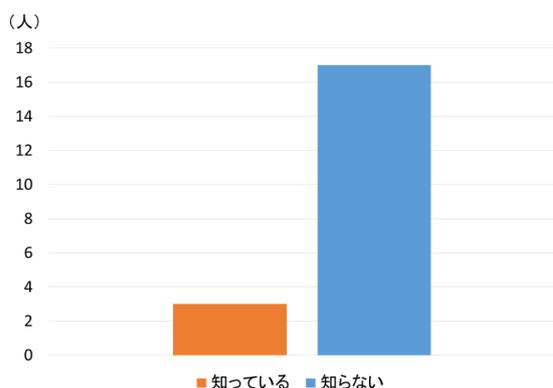
抗ウイルス治療が必要な場合の治療および治療後のfollow upに関する希望  
( ) 治療およびfollow upとも紹介先に任せる  
( ) 自院で治療およびfollow upを行う  
( ) 紹介先と自院で連携して治療およびfollow upを行う  
( ) 紹介先で治療を行い、follow upは自院で行う  
( ) その他 ( )

備考

いると答えた医師は21名中3名(14.3%)であった。知っているとは答えた3名に対し、紹介したことがあるか、紹介されたことがあるかについて調査すると、紹介したことがある医師は0名であり、紹介されたことがある医師は1名であった。また、拠点病院と肝疾患診療協力病院である2病院において、簡易型診療情報提供書による紹介者の数を調査したが、この紹介状による紹介患者はいなかった。以上のことより、簡易型診療情報提供書の認知度は低く、有効に活用されていない現況が明らかとなった。今後は医師会向け講演会などを通じて、直接的にこの紹介状の存在について説明することで、認知度を高めていく必要があると考えられた。ただし、この簡易型診療情報提供書を用いず、自院での紹介状フォームを用いて紹介している医師も多く、この簡易型診療情報提供書の認知度が高まることで、肝炎ウイルス治療における診療連携の重要性が認識され、診療連携の推進に役立つ可能性があると考えられる。

### C. 研究結果

簡易型診療情報提供書の認知度について



簡易型診療情報提供書について知っているかアンケート調査を行ったところ、知って

### D. 結論

簡易型診療情報提供書を県内の医療機関に配布したが認知度が低く、現状では有効的に活用できていないと考えられた。

### E. 健康危険情報

なし

### F. 研究発表

なし

## G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし